様式第１号（第１０条関係）

# 2024 年度業務実績報告書

提出日　　2024 年 12 月 24 日

１．職名・氏名　教授・森英樹

２．学位　学位　博士（文学）、専門分野　英語学 、授与機関　大阪大学 、授与年　2008

３．教育活動

| (1)講義・演習・実験・実習 |
|---|
| ①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>英語Ⅰ（1 単位、毎年開講）1 年生、2024 年度（前期 2 コマ） |
| ②内容・ねらい<br>英語Ⅰのねらいは、身近なトピックの英文を使って英語の知識の確認と定着を図るとともに、基本的な単語の習得と英文読解を通して視野を広げることである。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>習熟度に応じた英文と課題を準備した。また 3 回ごとに、単語と関連テーマでの自由英作文の課題を課すことで理解の定着を図った。 |
| |
| ①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>英語Ⅰ・再履修（1 単位、毎年開講）1 年生、2024 年度（前期 1 コマ、後期 1 コマ） |
| ②内容・ねらい<br>英語Ⅰのねらいは、身近なトピックの英文を使って英語の知識の確認と定着を図るとともに、基本的な単語の習得と英文読解を通して視野を広げることである。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>遠隔授業として、オンデマンド教材を活用しながら、受講生のペースに合わせて学習できるようにした。教材では解説動画を作成し、随時復習できるようにした。 |
| |
| ①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>英語 IIb（1 単位、毎学期開講）1・2 年生、2024 年度（前期 1 コマ／後期 2 コマ） |
| ②内容・ねらい<br>英語 IIb のねらいは、読解・聴解・英作文・文法・語彙などに焦点をあてた演習を行い、各自が苦手とする領域を克服することである。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>前期はことわざを題材とし、英語の文法事項の復習と日英語の違いが理解できるような教材の作成に取り組んだ。後期はリスニングとライティングの授業を行った。リスニングでは VOA や BBC を教材とし受講生が教室外でも随時復習・学習できるようにした。ライティングでは日本語と発想が異なる英語構文に注目し、より英語らしい表現を理解した上で自ら表現する機会を与えた。 |
| |
| ①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等<br>英語特論（2 単位、毎学期開講）1 年生以上、2024 年度（後期 1 コマ） |
| ②内容・ねらい<br>英語特論のねらいは、様々なジャンルの英文記事を通して、英文法や言語学の知識に基づき、文の構造を正確に理解しながら英文を読み解く力を身につけることである。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫<br>アメリカ人の視点から日本文化を論じた英文記事を取り上げ、日本文化と英語圏文化の理解を促進することを目指した。受講生の中に留学生（台湾・中国）がいたこともあり、毎回自らの経験に基づく発言の機会を設けて、相互に異文化理解が深まるようにした。 |
| |

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
英語基礎（1 単位、毎年開講）1 年生、2024 年度（前期 1 コマ）

②内容・ねらい
英語基礎のねらいは、基本的な語彙や構文を総復習しながら、大学での英語学習に必要な英語基礎力を定着させることである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
基本事項の解説と復習を重点的に行い、毎回の問題演習と定期的な課題によって継続的な学習を習慣づけた。また Google Classroom を活用して、英単語を反復練習できるようにした。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
言語学（2 単位、毎年開講）1 年生以上、2024 年度（後期 1 コマ）

②内容・ねらい
言語学のねらいは、日本語や世界諸言語のデータに触れながら、言語学の考え方や分析方法に慣れ親しみ、言語学的な観点から、母語を客観的に考察する視点を持つことである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
授業毎にワークシートと論述形式の課題に取り組ませ理解を促した。その上で、授業内容の理解に基づく思考力を問う課題を定期的に課した。

(2)その他の教育活動

内容

４．研究業績

| (1)研究業績の公表 |
| --- |
| ①　著書<br>・『ことばの井―人と人をつなぐ学びの源泉』森（英）研究室、2024 年 3 月<br>・『英訳 橋本左内『啓発録』―自分を高める五つの心得』彩流社、2024 年 3 月<br><br>【　2 本】 |
| ②学術論文（査読あり）<br>・“Characteristics of the X *ie* imperative expression: Three criteria for the classification of imperatives,” *Journal of Japanese Linguistics* 40(1): 31-57、2024 年 5 月<br><br>【　1 本】 |
| ③その他論文（査読なし）<br><br>【　本】 |
| ④学会発表等<br><br>【　件】 |
| ⑤その他の公表実績<br><br>【　本】 |
| |
| (2)科研費等の競争的資金獲得実績 |
| 「命令文研究における他動的使役性の再考と有標破格構文の扱い」日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C) 2024 年 4 月～2027 年 3 月（研究代表者） |
| (3)特許等取得 |
| |
| (4)学会活動等 |
| |
| |

５．地域・社会貢献活動

| |
|---|
| ・『ことばの井―人と人をつなぐ学びの源泉』を県内図書館・大学等に寄贈（2024 年 3 月）<br>・『英訳 橋本左内『啓発録』―自分を高める五つの心得』を県内図書館・大学等に寄贈（2024 年 3 月）<br>・公開講座「『啓発録』は訳せるか？」（第 1 回～第 3 回・オンデマンド配信）開講（2024 年 6 月～2025 年 3 月） |
| |

６．大学運営への参画

| |
|---|
| (1)補職 |
| |
| (2)委員会・チーム活動 |
| ・入試本部（R5.4～現在に至る） |
| (3)学内行事への参加 |
| |
| (4)その他、自発的活動など |
| |
| |